

第 16 回（仮称）岩槻人形博物館開設準備委員会 議事録

日 時：平成 30 年 3 月 14 日（水）14 時～16 時

場 所：大宮区役所 201 会議室

出席者：林宏一委員長（元東京家政大学 教授）

是澤博昭副委員長（大妻女子大学博物館 准教授）

新井久代委員（公益財団法人遠山記念館 学芸員）

新 雅史委員（東洋大学社会学部 助教）

大越久子委員（埼玉県立近代美術館 主席学芸主幹）

加藤三郎委員（NPO 法人岩槻・人形文化サポーターズ 代表理事）

清水一郎委員（ちばぎんひまわりギャラリー）

伴戸武三委員（岩槻人形協同組合 専務理事）

事務局

さいたま市スポーツ文化局 蓬田局長

同 文化部 大西部長

同 岩槻人形博物館開設準備室 川田室長、五月女参与、小松主幹、山本主査、菅野主査、菅原主任、平井主任、岩田主事

次 第

1. 開会 （傍聴希望者無し）

2. 委嘱状交付

3. あいさつ スポーツ文化局長

4. 委員紹介

5. 委員長及び副委員長の選出

（仮称）岩槻人形博物館開設準備委員会設置要綱第 5 条第 1 項の規定により、委員の互選により林委員が委員長に就任。

同要綱第 5 条第 3 項の規定により、林委員長の指名により是澤委員が副委員長に就任。

6. 報告

（仮称）岩槻人形博物館整備の進捗状況について事務局より報告

7. 議事

委員 長：それでは、改めまして議長を務めます林です、よろしくお願い致します。今回新たにメンバーも変わり、これまでの会議の蓄積を踏まえて、色々な観点からご指導をいただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

まず、(1) 資料の調査・保存とプレ事業について、説明をお願いします。

事務局：資料1について説明

委員 長：ありがとうございました。この一年間の資料の保存とイベントということで説明していただきました。資料の調査と保存について何かありましたらお願いします。

委員：今回は恐らく、岩槻の技をどのように展示すべきか、実際に事業で展示されたと思います。ご存知の通り、伝統の技と言いますか、目に見えないものをどのように継承していくか、どのように視覚化していくかということが大きな課題になっているように思います。博多人形でも毎回、ずっと新作展をやりながら色々な人のアドバイスを受けながら新作というかたちで、伝統の技を継承していこうと。その中で、この岩槻の博物館でも、伝統の技をどのように継承していくのかというところを、サポートする役割もあるのではないかなと思います。ただ、今後伝統の技を継承するというのはなかなか難しいものなので、学芸とアドバイザーが一体となって業界の方とも連携を深めながら、どうやってそういったものが継承に向かっていくのか、落としどころというものを考えていく必要があると思っています。

また、浅原コレクションを中心とした修復ですが、開館が決まると資料の保存というより、展示のためのクリーニングが必要になってくると思います。展示に耐えうるような資料をどのように選定し、展示するという事は保存とは逆の方向になりますので、貴重な、日本の人形文化の中で中心となるコレクションを展示することによって寿命を短くしてしまうのではなく、展示によって寿命を長くできるように、どのような展示方針と修復とクリーニングが望ましいのか、今後2年間かけてもう少し精査していくことが課題ではないかと思っています。

委員 長：非常に重要なポイントについてコメントいただきました。この資料調査については学芸の岩槻の人形の製造について、過去・現代の資料や情報の収集を行ってきましたが、現実の現場の違いというものも見えてきたのではないかと思います。事務局はどのように思われますか。

事務局：技や材料等、どんどん移り変わっていくので、それをどの段階を切り取り、過去の伝統的な技術と現代の状況をうまく整理しながら紹介していくかというのは難しい課題だと改めて感じました。

委員 長：今までそういったかたちは少なくとも様々な情報を客観的に吸収していると思うのですが、今委員がおっしゃったように、現状の岩槻人形については時代の変遷とともに様々に変化し、新しい工夫や技術を捉えて、どのように保存や継承していくかというのは大きな問題になってくると思います。実際現場としてはどのようなスタンスとい

うか、見方をされているのかお伺いしたいです。

委員：伝統の技法の継承について、若手の研修会というかたちで伝統の継承をやっています。また、作家さんもいらっしゃいますが、ほとんどの業界が分業されているので、その中で技術が保存されてきているので、系統をはっきりと、これはこうですとは申し上げにくい事情があります。博物館ができて、こういったことが取り上げられるということで、我々業界もそれを念頭に置いて、どうしていくべきかということを中心に考えていかなければならないと感じています。

委員長：今、そういった問題も含めて情報や資料の収集をしているということですが、今の事務局の説明について、委員の方から何か質問や意見ありますでしょうか。

(3)の修復で、事務局からもありましたが、人形の保存・展示への活用をしながら保存収集ということで、この辺は色々と難しいところがあると思います。今、事務局から我々が聞いているのは展示を目指した保存収集。展示してほぼ不安の無いような修復をしている点については、いかがでしょうか。

委員：この点数を見て、こんなにやっているのかという印象です。東京国立博物館では、毎年特集展示として、雛人形や古典人形等が出品されているのですが今年は幕末の雛人形の修理をしたということで、その成果も公開されています。HPに『雛人形は文化財として扱う意識が一般に薄く、「文化財」としての大掛かりな修理は館としてほとんど初めてのことであり、おそらく国内を見渡しても初めての試みではないだろうか』というようなことが掲載されていました。それを読んで、ここ岩槻でも、同じ視点でしっかりと行われていると感じました。今後も、どのように修理したのかという記録をしっかりとって、パネル等で公開してほしいです。それだけきちんとした修理をしているので、そういったことも必要なのかなと思いました。

委員長：今、修理をした成果の蓄積をどのように還元していくか、これは、この博物館の開設準備委員会をずっとやってきた中で、人形博物館の基本的な機能として修理修復をひとつの柱として立てていく必要があるのではないかとということで、これまでも、学芸さん等にご意見をいただきながらやってきました。これは是非とも、今後活用できるような組織、基幹をつくっていけるように事務局で様々な検討をしていただきたいと思います。

委員：おっしゃる通りだと思います。文化財としての修理についてもここが一番オリジナルだと思いますので、それを発信する何かというのは必要になってくると思います。調査報告書でちゃんと記録に残すということがまず必要と思われれます。中心になってやられている方は日本の人形文化財の修理については第一人者ですので、そういった方がどのように修理をしているのか、記録というかシンポジウムや講演など、修復の方はなかなかお話できないということであれば、巧みな委員にサポートしていただきながら、このようなかたちで人形文化財として、博物館として、資料を扱っているのだということをさいたま市としても発信していくことが必要になってくると思います。

委員長：これもひとつの大きな課題ということですので、人形修復技術というのは、まだきちっとしたジャンルではなく、出来る方もごく限られています。いずれはそういった部門をきちっと作るには、継承できる方を探していくということも、今後考えていかなければならないと思います。

人形組合で実際に人形を作られている方の技術や、そういった方にも参加いただける可能性もあるのではないかという検討や、話をいただきました。これから色々なかたちで情報収集しながら、実現できるか検討していく必要があると思います。いずれにしても、人形の修復をひとつの柱として、後継者や技術の基盤作りとなる大きな課題になってきますので、この委員会でもある程度議論が必要ですし、事務局サイドでも検討が必要になると思います。

その他、事業等についてご意見ありますでしょうか。

委員：染織調査について。鑑定結果の例①に縮緬が茜染めの可能性があるかとありますが、これは蛍光紫外線分析調査ですか。

事務局：あくまでも歴史調査となりますので、可能性のものとなります。

委員：分かりました。この資料は見た目は華やかではないけれど、こちらのコレクションの中でも目玉のひとつですので、科学的な分析をしたのか気になって質問をしました。

委員長：資料の収集では何かありますでしょうか。先程、新しいものではありますが一括の寄贈予定資料がありました。これまでの浅原コレクションやこの新しいコレクションは、この人形博物館の大きな核となると思いますが、いかがでしょうか。

委員：近代以降になりますが、コレクションのレベルとしてはかなり高く、少し見たのですが保存状態も非常にいいですね。堂々たる名前が出てきて、近代以降のコレクションが充実することがひとつの柱になるのではないかと思います。

委員：ひとつよろしいでしょうか。浅原コレクションの一部は笛畝コレクションであり、それらも含めて集められたものであり、時代の切れるものなので、階層も全て揃っているの、博物館の中の資料として位置付けするには、非常に重要な資料となってくると思います。

委員長：近代のものでなかなか交渉が難しいと思いますが、しっかり受け入れられるように努力してほしいと思います。資料の収集に関して、浅原コレクションについては市が決断をして、予算化を行い収集しているということですが、この世界のことですから、どんなものが出てくるか常に情報を張っておく必要があると思います。大きなコレクションに予算措置をして購入したということですが、これからも博物館活動というのは永遠のものでありますので、是非とも、これはという資料が出てきたときにはそれなりの対応として、館に迎え入れられるような体制作りをしていただきたいと思います。他にご意見ありますでしょうか。それでは次の議題に移ります。事務局の方から説明をお願いします。

事務局：資料2-1から2-3について説明

委員長：地域連携について、まちの戦略会議、岩槻・人形サポーターズと、充実した活動を行っていただいたようです。岩槻まちの戦略会議について、ご意見をいただきたいと思えます。

委員：まちの戦略会議は今年度で3年目となります。毎年大きな目標としては2020年の博物館開館にむけ、にぎわい交流館いわつきの話題がありましたが、先のことではあったので、毎年目標を決めて、少しずつ達成感を積み重ねて、一步一步成功していくということを考えております。昨年は、人形の話というのが伝統的なものなので、過去に遡って戦後の人々の歴史というものをまちの記憶と共に掘り起こしていこうという目標がありました。戦後の岩槻の風景や人形屋さんの暮らし等を、学生と共にヒアリングしました。今年はもう少し事業として、岩槻の事業者が2020年に向けて色々動いているということをまちの中で見つけていければと思い、駐車場を使った「ちょっと市」を企画し、こちらも思ったより多くの方が集まりました。来年度も目標を見つけて、それに向けて一步一步進んでいけたらと思っています。

委員長：着実な成果というのがひとつの狙いということで、博物館の開館に向けて心強い環境整備だと思います。それに合わせて、早くから支援や組織作り等ご尽力いただき、岩槻・人形文化サポーターズということでご指導もいただいております。

委員：人形とドールとはちょっと違うということで、宗教、玩具、美術品、この3つの要素を持ったNINGYO(人形)という言葉が、TSUNAMI(津波)と同じように世界共通語の日本語になればよいということを頭に入れながら行動しております。「五節句のまち、さいたま市岩槻」をテーマとしておりますが、残念ながら五節句を全部やっておりましたが、今回「人日の節句」を実施しました。人形というのは産業とみられていて、文化という面が強調されていなかったのも、名前のように人形文化サポーターズということで、行政ならびに先生方、人形協同組合のご支援を得て、色々なイベントを行ってきました。五節句というのは、家庭内で行われることが多いので、イベントとして外に持ち出すことはなかなか難しいのですが、多世代に対してアピールしていこうということで展開してきました。例えば人日の節句というのは1月7日七草粥なのですが、お子さんたちはあまり七草粥を食べません。七草粥だけではお子さんが来ないということもあり、だるまの絵付けをしようということになりました。そうすると、だるまのこともお話できますし、我々のイメージだとだるまは赤ですが、今はカラフルなものもありグリーンやイエロー、ピンク等を準備しました。絵付けをしていただくというだけでも物足りないのも、神事を入れようということで、ある神社にだるまを御祈祷していただくとも費用もかかるので、白紙を持って行って無料でお祓いしてもらい、それを切って短冊形にしてだるまの後ろに空いている穴に、お子さんたちの願い事を書いて入れました。それをまた来年持ってきてくださいというイベントを1月7日より少しずらして、14日に開催したところ、とてもご好評をいただきました。だるまの説明もでき、七草粥の説明もできました。七草粥は保健所の認可を持つ

ている団体、あるいは女性会にお願いして、冷めるといけません火は使えないのでIHを使ってやりました。家庭内でやっていたイベントを外に出して五節句を認識していただくことを目的として実施しました。端午の節句ではお子さんにこいのぼりの尻尾から入ってもらい口から出てきてもらいました。怖がるお子さんもいるので、大人も入れる大きさにしました。クレセントモールと神社2箇所に真鯉、青鯉、緋鯉をそれぞれの場所に1つずつ配置しました。それだけではなく、金屏風の前でお子さんに甲冑を付けて記念写真を撮るといのように、これも節句を戸外で実施する一貫した考えの上で実施しました。七夕も笹を飾るだけでは既に幼稚園でやっていることなので、まちの商店街に飾り、短冊の外に吊し飾りを加えました。見るイベントから参加するイベントへと楽しさを演出するためにそうめん流しを実施しました。これは観世水という古事に習って、こういうことで長命等色んなことを願ったんだという話をしながら、親子でそうめんを流し、絆を深め、食文化も兼ねたイベントを行っていました。重陽の節句は菊の節句で、後の雛として3月に飾ったお雛様の虫干しを兼ねておりますので、そのお話をしながら実施しました。端午の節句やひな祭りは、まちをあげてやっておりますが、そこへトラディショナルな人形もクリエイティブな人形も飾るための、国内公募展を実施し、4日間で5000人の来場者がありました。さらに来年度は国際公募展をやるつもりで計画しています。ただこれは稟議が間に合わないのので、アジアくらいになるのではないかと思います。これを指導していただいている先生が、既にパリで賞をいただいたりしているので、そういう方のつてを頼りながら、人形博物館が出来たときに、色んなプレイベントができるよう、人形文化のセンターとして、多世代に対して人形文化の浸透といったことができればいいなということで、皆さまのご指導ご協力をいただきながら、進んでおります。

委員長：非常に柔軟でビジョンの広がる大きな活動だと思っています。本体の博物館の開設以前に、かなり充実した支援組織作り、地域の環境整備が進んでいるということで、こういった活動についてはこれまでの積み重ねで来ているのだと思います。清水委員は就任にあたって事前に情報はあったと思いますが、こういった活動についてどのように思われましたか。

委員：本日初めて参加させていただきました。何が一番大変かと言うと、どうやって人を集めるかということが大事だと思います。展覧会をやるということは、例えばレコードはA面とB面があって、A面とB面がないと商品にならないのですが、この場合と言うとA面は博物館美術館ということで完璧なものは揃うということになると思うんですね。今ひょっとして必要になってくるのはこのB面の方かなと思っています。ツアーの意見交換会の中に「岩槻は、素材はあるがマーケティングがなっていない」という意見があり、最終的にはここに集約されるのかなと思いました。三越本店の展覧会に来た人の7割はどこかへ寄られるのですが、7割の中の7割が全部食べ物です。食です。女性は必ず別腹を持っていますので、お昼を食べた後でもケーキが食べられ

るんです。百貨店にはそういった施設が完備されています。人形を見に行こうという人はかなりコアなお客様だと思うのですが、そうでない人は、人形“も”見るけれど何かしたいということになるのかなと思います。グーグルキーワードの検索で伝統工芸に関してどういった検索をしているかと言うと、ベスト10の中に「人形」は入ってきません。人形の検索で言うと、博多人形、京人形、その次くらいに岩槻人形という感じです。なので、修復はこうやっている、この博物館はこれが売りです、岩槻の人形はこれが売りですというものが必要だと思います。3つも4つもあってはだめだと思います。ひとつだけです。必ず、ワンワードで何か訴えるものがないとお客には響きません。何でもありますというのは、実は何もありませんということになります。そこがキーなのかなと思います。今日、午前中に岩槻の駅に降りましたが、人形のまちというワクワク感が全くなかったので、まず、玄関入った一歩目というのはとても大事なので、その周辺のことを1回考えなければいけないかなと思いました。そこが気になりました。誰をここに呼ぶのかという、ターゲティングが大事だと思います。美術館、博物館についてレベルが高いのは承知していますが、レコードのB面を意識してかかれないと、これだけの規模のものをせっかく作るのであれば、多くの方に来てほしいなと思います。

委員長：今までこの支援団体や、地域の連携の中で課題としてきた問題点をご指摘いただきました。これからこの積み重ねを続ける中で、課題のひとつひとつを潰していく必要があると思います。確かに、町全体となると課題が大きくなりますが、人形博物館の開設準備が起爆剤となり、岩槻のまちが覚醒していくよう工夫が必要かと思います。こういった博物館の支援組織としてはいかがでしょうか。

委員：すごく難しいものだなとつくづく思いました。鉄道会社とのタイアップとか、何かコアな部分がないとなかなか伝わらないものだとつくづく思いました。今まで私たちは主に加藤委員の立場から、人形の文化を醸成していくというのは、私は分かりやすかったけれど、それをまちに伝えていく難しさというのが想像以上の感じがします。例えば五節句についても、家庭から外に出て行くとなった時に、ターゲットは誰なのか。まちの人をまず育てていくという意識を変えていくのか、観光としてよその人を入れ込んでいくのか。その辺が、考えていることとターゲットが一致して見えてこないと感じました。これが建築蔵造りのまちや、固まった何か、形にあるものだと分かりやすいのですが、これはコンテンツで外枠がないので、大変難しいなと思いました。

委員長：客観的なご意見をいただきました。各委員のご意見にあった、あまり昔のことではなく身近なところからアプローチしていくのもひとつだと仰っていましたが、この博物館を開設するにあたっては、岩槻の住人の方の理解と支持がないとなかなか難しいと思っています。その扉を開いていくには、委員の言っていたアプローチは有効かなと思いました。そこから各委員のサポートがあると、岩槻の住民の方々も、自分たち

の住んでいるまちの伝統や、これから新しくできる人形博物館について理解を示してくれるのではないかと思います。その努力が今、行われているわけですが、見通しとしてはいかがでしょうか。

委員：現状から申し上げますと、岩槻は、東西は東武線が通っており、南北は公共交通機関と空白地帯、路線バスが1時間に1本か2本程度です。交通アクセスというのは都市局で検討してもらっていますが、我々も集客ということを考えてやっています。2月24日から3月11日まで「ちょっと市」をやってみて、やはり話題性のあるもの、オリンピックのエンブレムが市松模様なのですが、岩槻には市松人形というものがあつたのに、展示されていなかったのので、実行委員会に来年は展示してほしいと伝えました。江戸三座の中の中村座の初代、佐野川市松という役者が、紺と白の碁盤模様の衣装を着て芝居をしたところ、大変な人気となりこの模様が当時流行しました。岩槻にそういうものがあるのになぜ展示しないんだと思いました。口頭で説明していましたが、来年は実物を展示して、話題性を出して行ってほしい。オリンピックパラリンピックのエンブレムと岩槻の市松人形の関係、位置づけをはっきりさせたいと考えております。そうした中で、伝統的文化、近代的な香りも入れて現代の人にも分かるように、言葉の意味も分かるように、試行錯誤していくというのが現状です。何かしないと前には進まないのので、その点をご指導をいただきながら、時間をかけてやっていきたいと思っております。

委員：ひとつよろしいですか。こういう方向で考えていますという、皆さんと議論しながらやっていきたいのが、戦略会議を作った理由が、市民団体よりも、リスクの取れる人たちに入ってもらったというのが大きなところなんです。どうしても欠点ばかり出てきてしまうのですが、欠点ばかり出しても足を踏み出しにくいということもあり、その中でも事業というリスクをとっていらっしゃる方たちはどうしても前に進まなければいけないので、まちとして少しずつ成功体験を作っていくということで戦略会議としました。その時にどうしても、先程も面白さが伝わりにくいという意見もありましたが、岩槻の人形がもう少し可視化されて目に見えたり感じたりすることのできるまちになるといいなと思っております。例えば、戦後の話を聞いていると、例えば人形を天干して、外に見えている状況がありましたが、今は全部建物の中に入ってしまっかなか見えづらい状況というのがあり、人形屋さんの看板はあっても、人形そのものを感じにくい状況になっていると思います。戦略会議の中で、大きな方向性として考えているのが、人形博物館という大きな施設ができて、その施設の中に閉じこもってしまうとつまらないので、できれば岩槻全体で、人形市のような雰囲気を出せたらと考えています。ただ、いきなりというのは難しいので、まずは祭りの時に道路上や駐車場など使われていない空間の中で、外で楽しい姿が見られるような雰囲気づくりをやっていきたいと思ひ、まずは「ちょっと市」を開催しました。徐々に階段を上って行って、最終的には、公園や博物館の前などで、もっと人形を感じられるように

なればというのが、考えているストーリーです。

委員：そういった志は大変素晴らしいと感じております。先ほど市松模様の話が出ましたが、例えば市松模様の布で揃えて会場を飾るだけでも、とても華やかな一体感を与えられると思いました。とてもモダンな世界に通じる模様ですから、そうしたものをまちのイメージに取り入れて視覚化していくというのもひとつの手段だと思います。水玉は世界のどこにでもあるような模様ですが、ファッションに取り入れて定番にしたのはスペインだという話を聞いたことがありますので、やはりやり方だと思います。

委員長：岩槻というまちにどう持っていくかということですね。話は変わってしまいますが、この博物館がオープンしたときに、地域や支援が必要になってくるのですが、具体的にどんな人たちが来館してくれるのか、ターゲットにしていくか。これまでの博物館からしたら、60代から70代がメインでしたが、若い方をどう取り込むか。盆栽美術館はこの博物館がオープンした時には、ひとつの連携すべき館としていきたいのですが、入館状況を聞いたところ、7万人以上ほどの利用者がいて、その内海外からの来館者も多いということでした。この辺りを、オープンした後どのように、様々な戦略会議やサポート活動を進めていくかというのも、ひとつの検討事項になると思います。やはりオリンピックと合わせてオープンするということですから、あと2年間の中で、少なくとも岩槻のまちの戦略会議の対象としている方々を中心として、どれだけの受け入れ態勢ができるか、そこは大きなウエイトがかかってくると思います。

委員：博物館に隣接して「にぎわい交流館いわつき」が作られるので、その空間にどのようなコンテンツを考えるのか、何も考えないと公民館のような施設になってしまいますので、そうではなく、事業者さんからこういうものを販売したいとかこういうものを展示していきたいと、提案が出てくるようにしたいと思っています。戦略会議を立ち上げたのは、意見が出やすい雰囲気を作るということを踏まえて作ったということもあるので、にぎわいのこの施設をどうにかしたいと思っています。開館時間も、博物館が閉館した後も恐らく活用できる施設になるので、個人的には重要だと思っています。もうひとつは、売りが何かという話が出ましたが、私も関わらせていただく前は、岩槻がどういうまちかというのをあまり知らずにいました。みんなが比較的興味を持つポイントとしては、岩槻の特徴はトヨタみたいなものだと思います。ということかと言うと、トヨタというのは色々な下請け等、非常に技術を持った製造業者が集積してトヨタというものが出来ていると思います。もちろん岩槻にも作家さんがいらっしゃいますが、岩槻の一番大きな特徴というのは、様々な職人さんが集積していて、専門家を評価するまちなのではないかと思いました。私は、人形という文化を支えてきて、トヨタのようなまちだと思います。若い人に話すと、岩槻ってそんなに専門家が集まっているんですかと言われる。先程人の話が出てきましたが、職人さんの持っている無形的な文化が伝わるようなかたちで展示したりすれば、興味を持つ人がかなりいるのではないかと思います。日本中のある種の人形文化を支えるまち

だと言いついてしまっているのではないかと、私個人的には思います。非専門家としてですが。

委員 長：博物館の展示活動はもちろんのこと、支援活動の中でも必要があると思います。

委員：五節句を前面に出すということで4年やっていただいているので、そういうのがあると我々もやりがいがあると思います。去年から栃木が重陽の節句をやり始めましたが、五節句をやっているのはさいたま市岩槻だけだと根付かしておけば非常に手を挙げやすいと思います。

委員：この博物館はこういうものだというキャッチコピーは作られますか。必要ですよ。そこに乗っかって、今おっしゃっていただいたような内容をどんどん乗せていただきたいです。ターゲットというのも気になったのですが、特に中高年世代の女性は雛人形がとても好きだと感じています。恐らく開館したときは世代関係なく、相当反響が大きいと思います。びっくりするくらいだと思います。ただ、その後になどのようにしていくか、始めの一步がとても大切ではないでしょうか。メディアにも多く取り上げられるだろうし、2020年に向けて、外国語の対応なども整えておく必要があると思いました。

委員 長：ほかにいかがでしょうか。

委員：11月3日の問題ですが、供養祭というのはもともと組合の方で、古い人形を引き取り新しい人形を買ってもらおうという営業戦略がありました。それがひとつのイベントになるということは、始めは考えていませんでした。今後、まちのイベントとして大きくなっていくというのは大事なことだと思います。例えば供養祭が11月3日にあり大勢の人が来るから鷹狩りをやろうとなったので、集中してしまったので、最初は本当に人形の供養さへできればいいとしか思っていなかったわけです。岩槻文化として人形が定着できることが大事だと思っています。そのためには、人形の製作現場を見学したり、体験したりということをするれば、人は来ると思いますので、各企業の体制作りが今のところは整っていませんが、その辺りも整備していかないと人形の良さをアピールすることができないと考えております。

委員：2020年に向けての土地の計画の話や、色んなイベントの積み重ねの話がありました。実は今、とある大学でウーピー科学、古代オリンピックの話をしているのですが、この後何をするのかというのは、2020年の後のことを考えています。つまりここでやらなければいけないのは、開館した翌年のことをどこかの時点でスタートしなければいけないと思います。オープンしたてのときは、もちろん人が来ると思うのですが、一周した後のことも平行して考えていかなければいけないと思います。ひとつ聞きたいのですが、この中にカフェはありますか。

事務局：カフェは予定していますが、大きなものではないです。事業者が入っていただければという感じです。

委員 長：あとは「にぎわい交流館いわつき」もあるので、そちらの活用もこれから検討してい

くと思います。ただそちらについては大きな議題にはなっていないので。まだまだ建設、開館に向けて様々な準備が必要になってきますが、その他何かご意見ございますか。

委員：この博物館のおそらく一番の特色になることは、綺麗な人形が飾ってあることだけでなく、技術的なことや歴史的なことを公開したり、専門性の高い職人集団をどう見せたりするかというところだと思うんです。その一方で例えば展覧会のときに、それに合わせたグッズを売っていて、お金が落ちるとするのはデパートが率先してなってきた戦略です。それを日本の美術館が真似をして、展示を見終わったらショップに寄るようになったわけです。これを、まちとミュージアムと、その隣の施設におきかえてみると、それぞれがどんな風に住み分けをしていくかというのが重要になってくると思います。今まで交流施設のことはよく考えていませんでしたが、隣にこういったものがある役割はすごく重要だと思います。

委員長：それでは、時間もございますので、他にないようでしたら、本日はこれで終わりにしたいと思います。これまでの7年間準備を進める中で、人形博物館が相当恵まれた環境でオープンできるのではないかと思います。戦略会議等で様々な活動についてご尽力をいただく必要があると思います。ぜひともよろしくご協力をお願いします。また展示等に関しては、これまで基本的なものがあって、整備されて、それに向かって開設準備を進めているところですが、これについても新しい情報が入ってくれば、そういったものを踏まえながら軌道修正をしながら進めていく必要があると思います。それでは、本日の議事については終わらせていただきます。それでは進行は事務局に渡します。

8. その他

事務局より次回の開催について連絡

9. 閉会

問合せ先 スポーツ文化局文化部岩槻人形博物館開設準備室